

個人投資家セミナー 資料

2014年9月

株式会社 AOI Pro.

Creative Native

AOI Pro.

1. 事業概要

- ・ 事業領域
- ・ 広告制作事業とは
- ・ TVCM映像制作業務の流れ
- ・ 競合環境
- ・ AOI Pro.の強み
- ・ 受賞
- ・ 外部環境の変化
- ・ 広告市場動向
- ・ 新たな強みの創造
 - －①デジタル部門の再編・強化
 - －②グローバルなネットワークの構築

2. 2014/3月期実績

- ・ 売上高推移
 - ・ 連結決算概要
- ご参考：広告需要動向と広告制作事業の
売上高推移

3. 2015/3月期予想

4. 株主還元

- ・ 配当政策の方針
- ・ 株主優待制度の新設

資料 (2015/3月期 第1四半期実績)

- ・ 連結決算概要 (第1四半期)
ご参考：四半期売上高推移

1. 事業領域

2. 2014/3月期実績

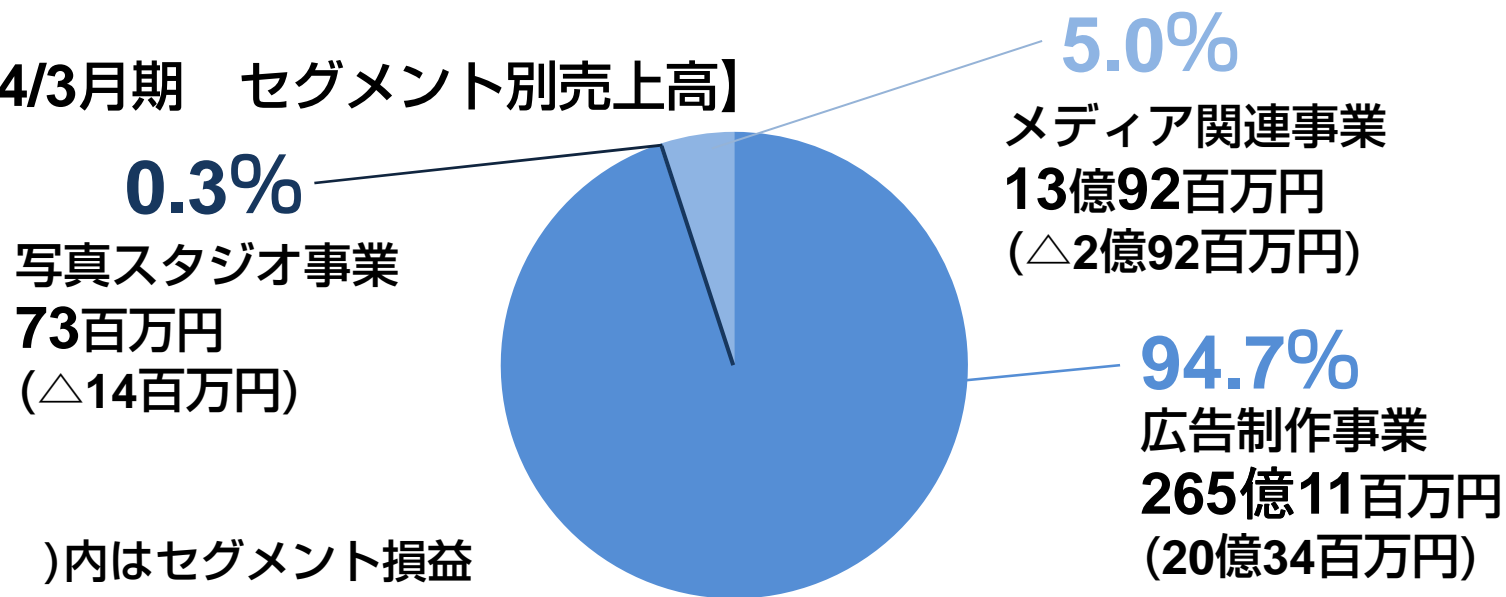
3. 2015/3月期予想

4. 株主還元

資料(2015/3月期 第1四半期実績)

<p>広告制作事業</p>	<p>主にTVCM作品、WEB作品の制作及びイベントの運営等、広告に関わる制作事業</p>
<p>写真スタジオ事業</p>	<p>コンシューマ向け写真スタジオ運営並びに全国の写真スタジオに対する販売促進支援事業</p>
<p>メディア関連事業</p>	<p>ゴルフに関わる出版・広告・オンライン事業 ※事業譲渡に関する基本合意書を締結済み</p>

【2014/3月期 セグメント別売上高】



※ ()内はセグメント損益

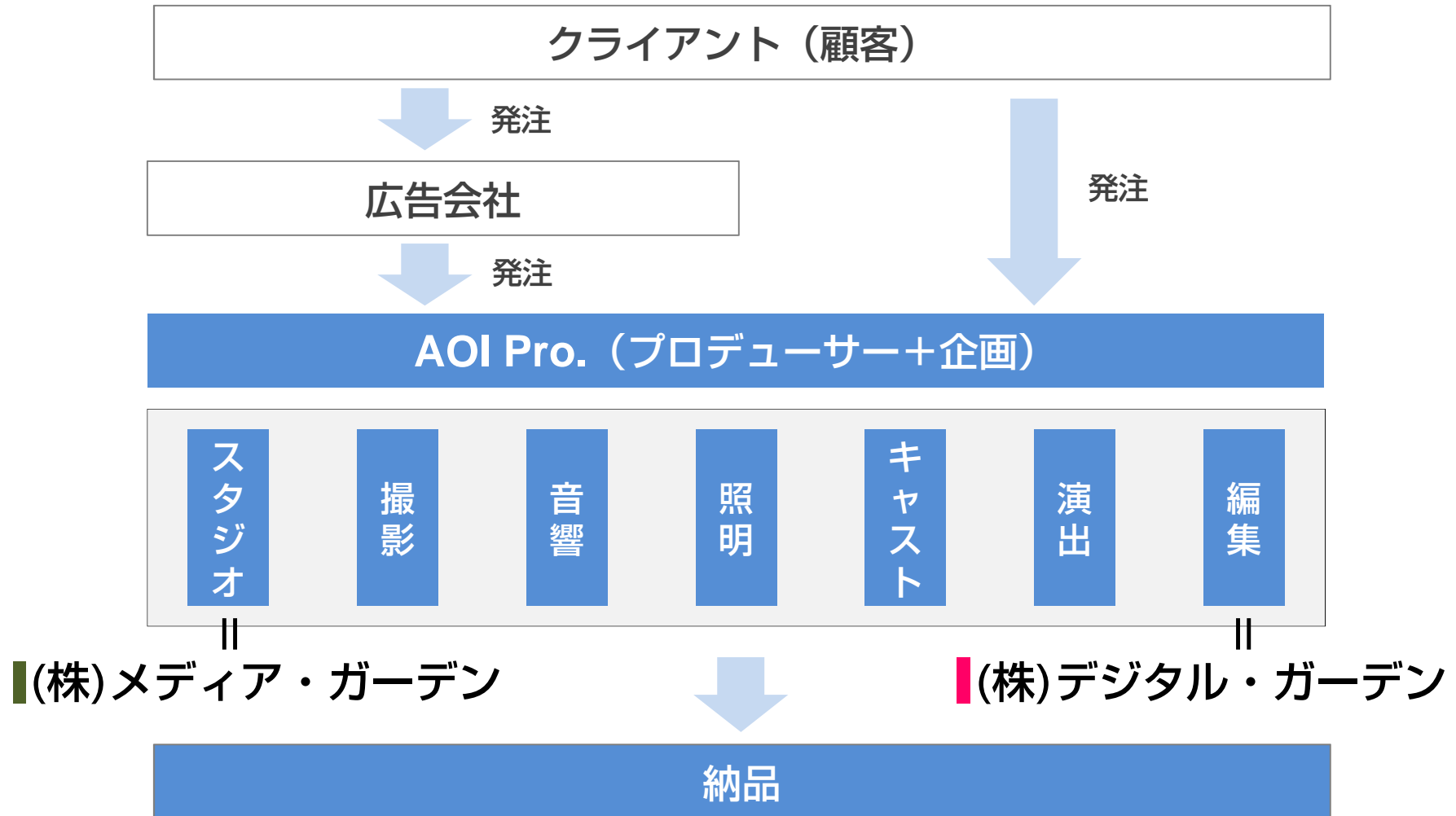
広告制作事業とは

AOI Pro.



TVCM映像制作業務の流れ

AOI Pro.



【広告制作業界内競合の現状】

TVCMをはじめとする映像コンテンツ制作の
業界団体JACの正会員社数は93社* (2014年4月現在)

*AOI Pro.グループでは4社(AOI Pro.、ワサビ、シースリーフィルム、大日)

(JAC：日本アド・コンテンツ制作社連盟 Japan Ad Contents Production Companies Association)

そのうち、TVCM制作事業を中核事業のひとつとする
上場企業は当社を含め3社



設立来50年間で培った信頼と実績を基に
業界最大手の一角としての地位を確立

1. 映像を企画から制作まで自社で対応できるノウハウとリソースを保有

- ・ 自社にプランナーや演出家を多数持ち、クリエイティブな提案が可能
- ・ 自社グループで撮影スタジオ、編集スタジオを保有

2. 顧客のニーズに合わせた広告制作にワンストップで対応可能

- ・ 映像、WEB、紙等の各種プロモーションツールやイベントなど全て自社グループで制作可能

3. 上場企業としてコーポレート・ガバナンスを強化

- ・ コンプライアンス体制を整備
- ・ Pマーク、情報マネジメントシステムの国際的規格の認証を取得し、情報管理体制を整備

2013年 ACC CM FESTIVAL 2部門にて総務大臣賞・グランプリを受賞

(ACC：全日本シーエム放送連盟 All Japan Radio & Television Commercial Confederation)

→ クリエイティブ力強化の結果

- ・日本最大の広告祭「ACC CM FESTIVAL」のテレビCM部門とマーケティング・エフェクティブネス部門*において、当社制作作品が総務大臣賞・グランプリを受賞
- ・当社制作作品が同広告祭のグランプリを受賞するのは3度目であり2部門でグランプリを受賞するのは創業以来の快挙

* マーケティング・エフェクティブネス部門：CMを中心に戦略的かつ効果的な広告活動を展開し、ビジネスに大きな成果を残した企画に贈られる賞

テレビCM部門
総務大臣賞・グランプリ



ナイキジャパン ナイキベースボール
「宣誓」

マーケティング・エフェクティブネス部門
総務大臣賞・グランプリ



ダイハツ工業 ムーヴ「その進化は事件だ。」
～新型ムーヴ導入キャンペーン
画像：TVCM「パパの愛」



↓

消費者のテレビに接する時間が減少する一方で、
テレビ以外のメディア、デバイスで映像に接する機会は増加

↓

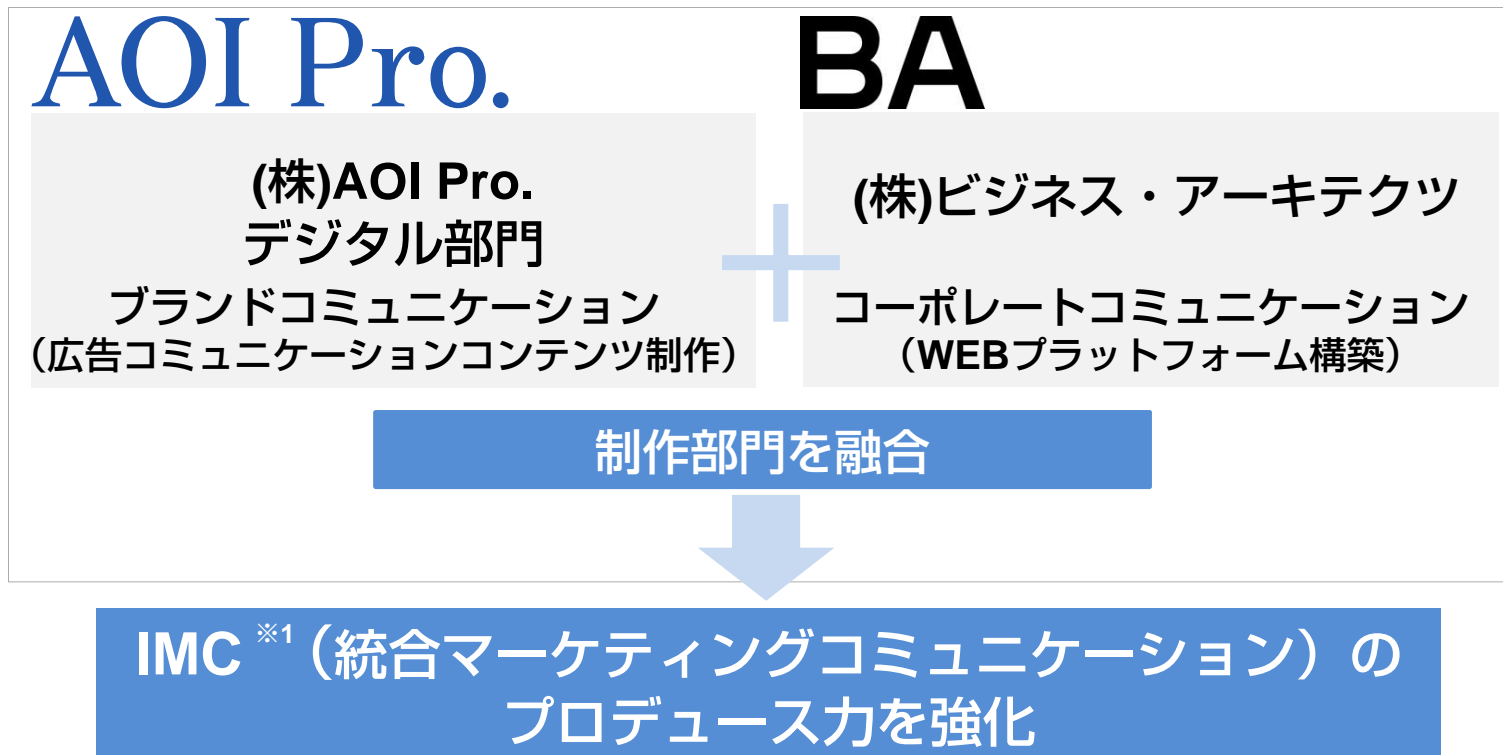
中長期的に、TVCM制作マーケットの大幅な拡大は
難しいものの、映像に対するニーズは高まっていく

1. 日本の総広告費は2年連続で増加、成長軌道へ
TV広告の影響力は引き続き大きく、TVCM制作費も増加
(2012年 1,990億円、2013年 2,147億円 前年比7.9%増)
2. インターネット広告では動画を活用した運用型広告も増加
インターネット広告制作費も増加
(2013年 2,178億円 前年比6.2%増)
3. 世界の総広告費は2014年～2017年 毎年4%増加予想
※アジアは 同 毎年5%増加予想

(1,2:電通、3:eMarkter等の発表より当社調べ)

デジタル部門の再編・強化

- 多様なメディアを統合させたコミュニケーションデザインに一貫して対応するため、2013年4月にグループ会社の制作部門を融合
- 先進的なテクノロジーへの対応力、新しいサービスの開発力の強化、制作体制を効率化



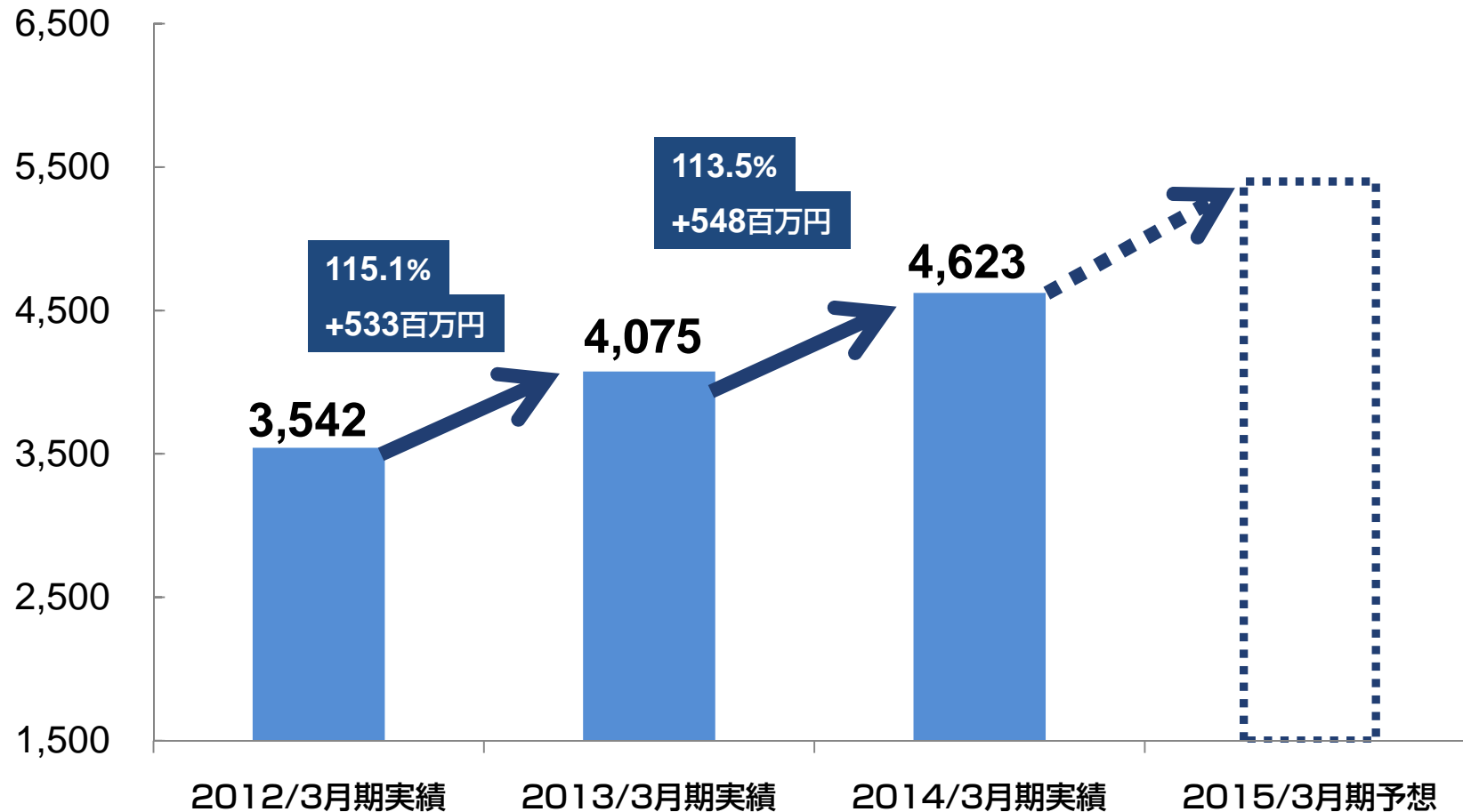
※1 IMC (Integrated Marketing Communication)

企業のマーケティング活動において、媒体を限定しない統合的なコミュニケーションのこと

「CM作品以外の映像・WEB制作等」の連結売上高推移 AOI Pro.

- デジタル部門の再編・強化によりWEB動画制作を含むデジタル関連売上が増加
- 映画製作やミュージックビデオ等のエンタテインメント映像制作にも取組み、AOI Pro.ブランドの認知度が向上

(単位：百万円)



「CM作品以外の映像・WEB制作等」 作品の紹介 AOI Pro.

WEBムービー

富士重工業株式会社 SUBARU フォレスター
「Let me drive」篇



映画

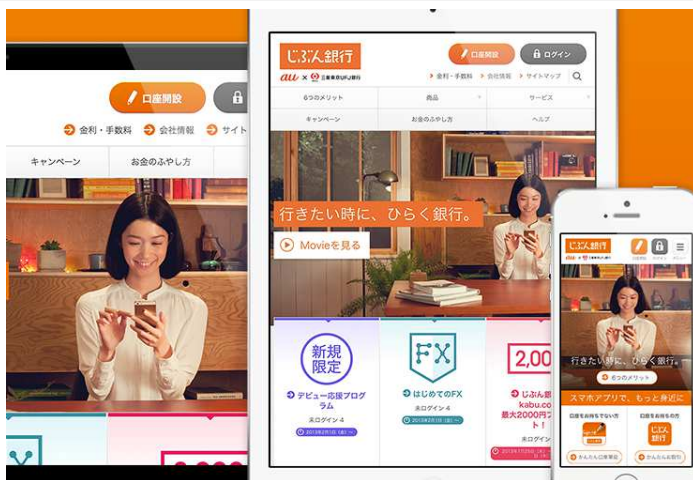
2013年11月16日全国ロードショー
『くじけないで』 当社出資・制作、松竹配給映画



©2013『くじけないで』製作委員会

WEB制作

株式会社じぶん銀行
ウェブサイトリニューアル



ミュージックビデオ

AKB48 32nd シングル

「恋するフォーチュンクッキー」ミュージックビデオ



グローバルなネットワークの構築

- 2011年9月ジャカルタへの現地法人設立をスタートとして、海外の各拠点を線として結ぶ体制を構築、東南アジアを中心とする海外戦略を加速化
- 2013年4月には「北京葵友広告有限公司」を株式取得により子会社化し、ネットワークを充実

2013年2月 バンコク
⇒東南アジア諸国の案件を
カバーするハブプロダクション

2013年4月 北京
⇒TVCM制作プロダクション
(海外協力会社を子会社化)
※協力会社として上海にも拠点あり

2012年11月 シンガポール
⇒アジアの地域統括会社

2011年9月 ジャカルタ
⇒TVCM制作プロダクション

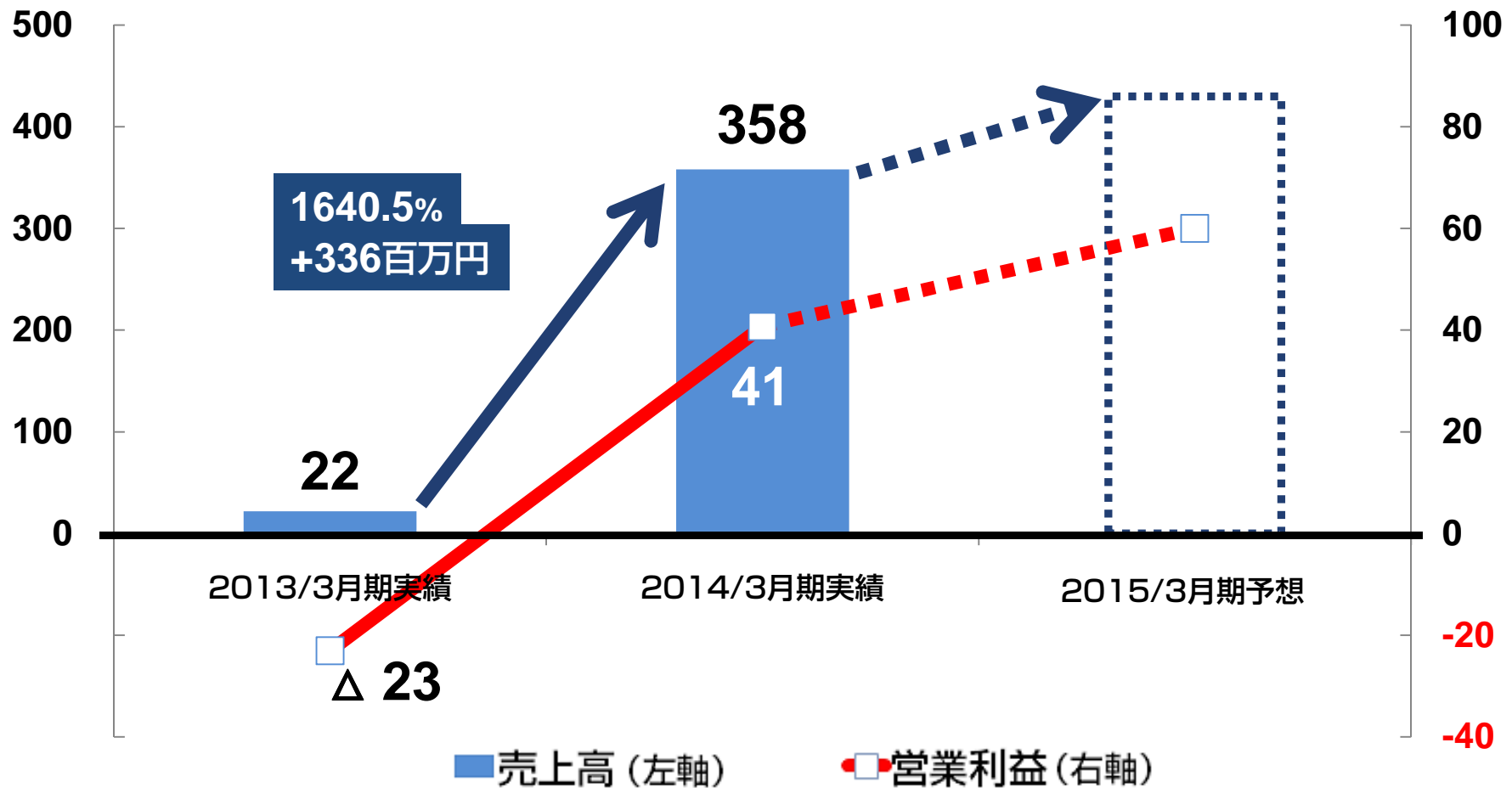
AOI Pro.

AOI ASIAの売上高・営業利益推移

AOI Pro.

- バンコク・北京拠点の設立により売上が大幅に拡大し、黒字化
- 日系クライアント・広告会社の広告動画制作のニーズは高まる傾向にあり、3年後に売上高10億円を目指す

(単位：百万円)



1. 事業領域

2. **2014/3月期実績**

3. 2015/3月期予想

4. 株主還元

資料(2015/3月期 第1四半期実績)

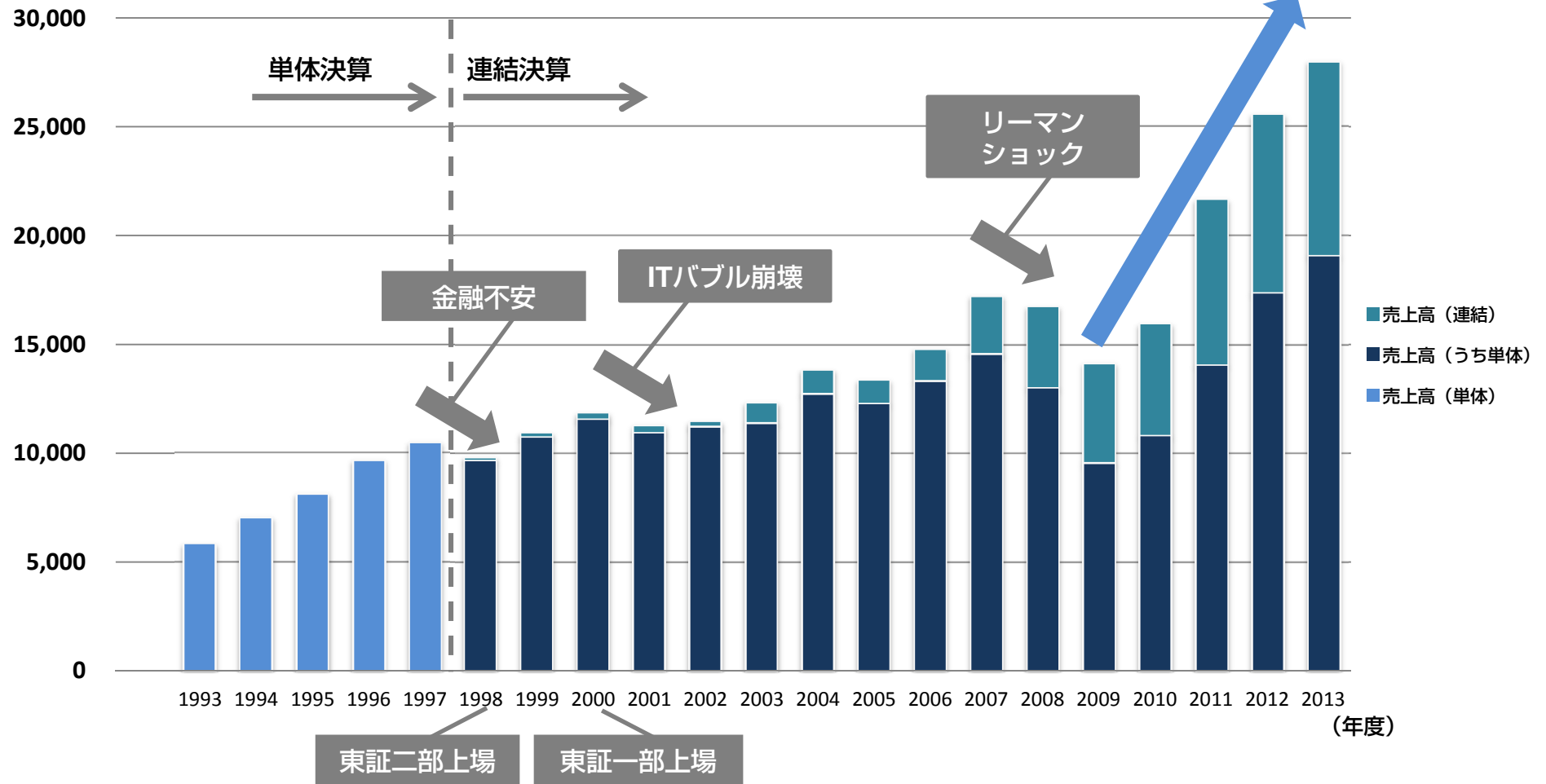
売上高推移

AOI Pro.

- 設立以来、基本的には右肩上がりの成長を維持
- 直近では、リーマンショック後、V字回復

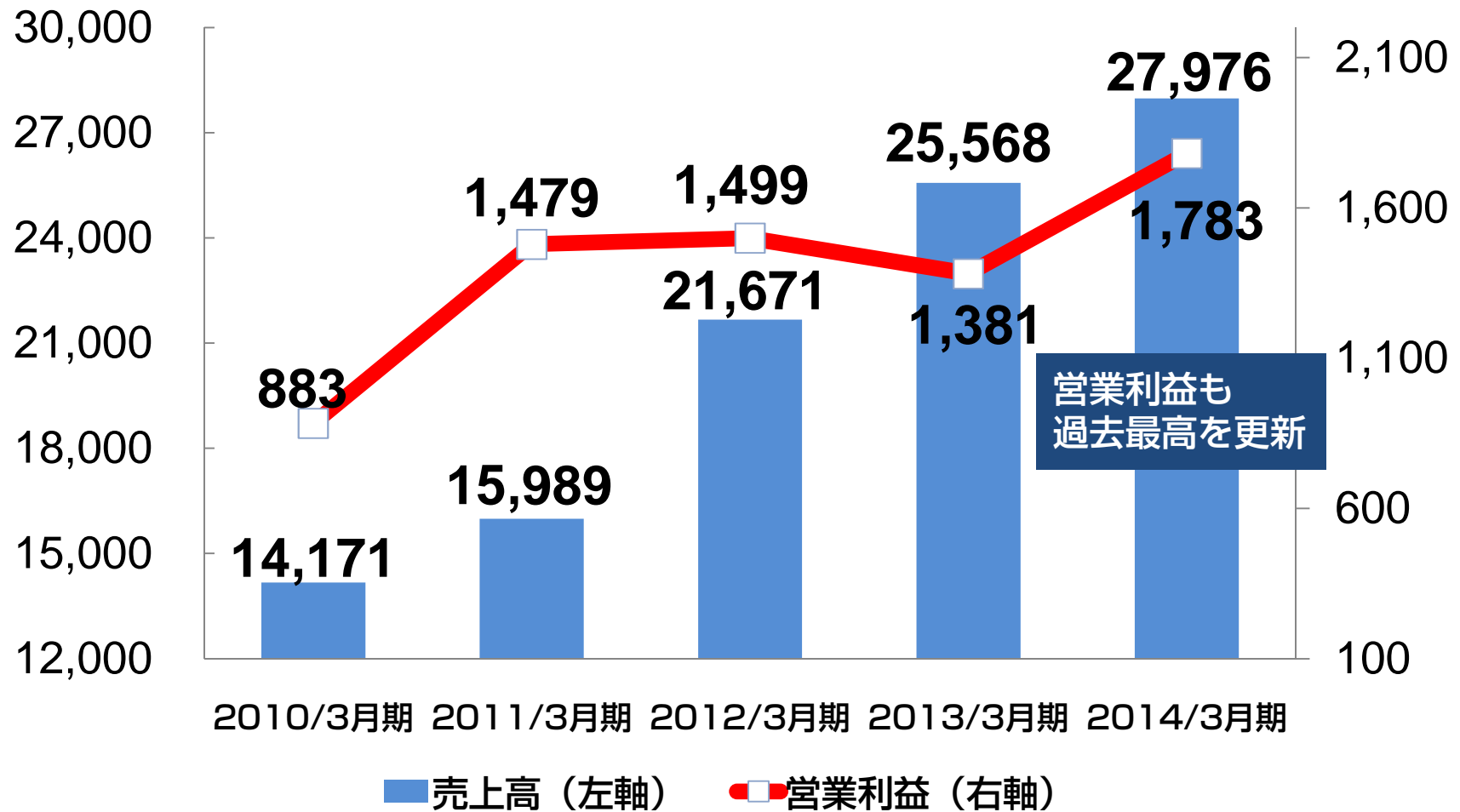
・ 3期連続で過去最高を更新
 ・ リーマンショック直後の
 ほぼ倍の水準に

(単位：百万円)



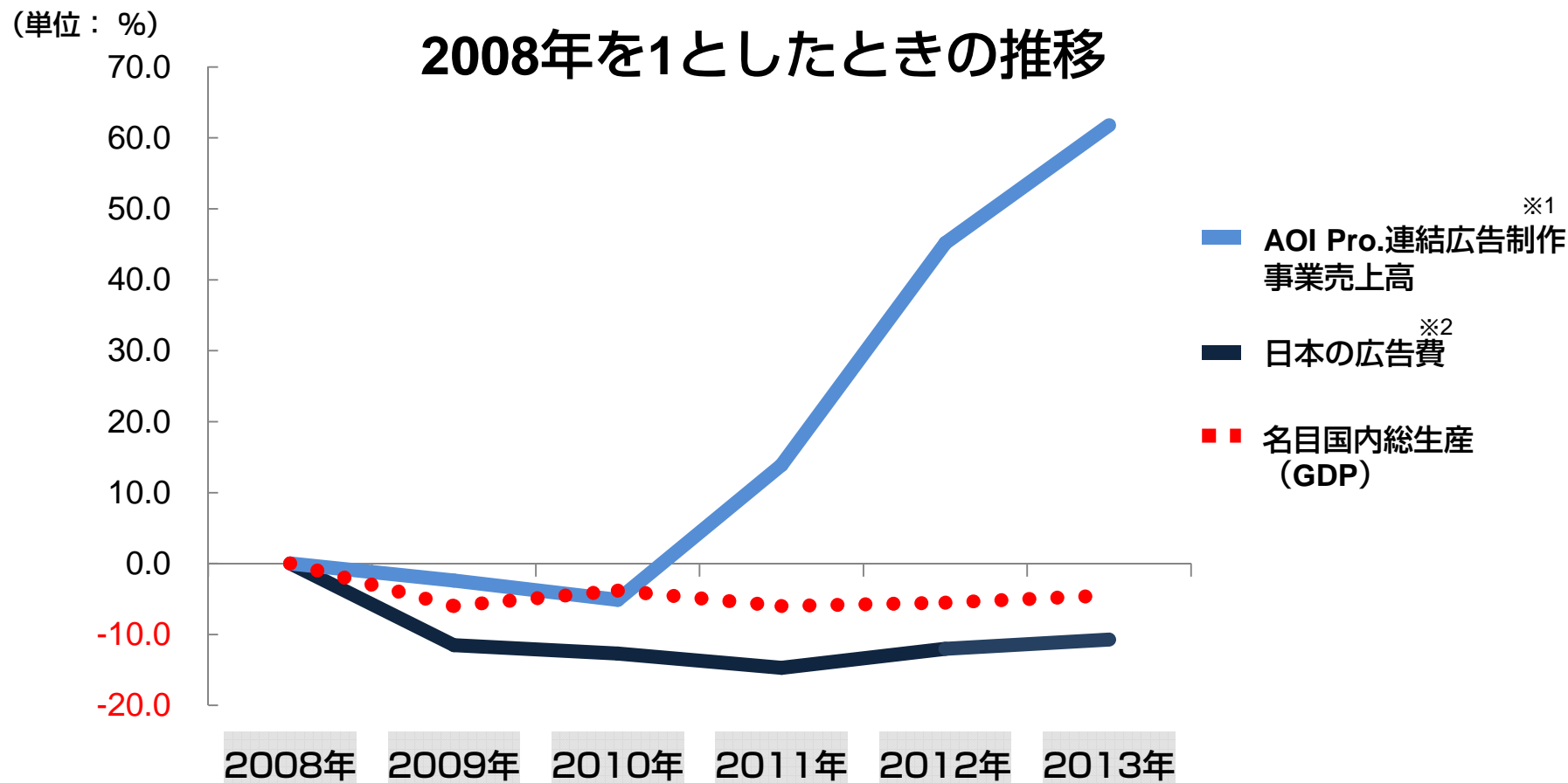
売上高と営業利益の推移

(単位：百万円)



広告需要動向と広告制作事業の売上高推移 (2008年比増減率の推移)

- 前述の既存ビジネスの強みに加えて、新たな取組みとの相乗効果により、主力の広告制作事業の売上高が、広告需要動向を上回って増加



※1 各年度の期間は1月～12月の12ヶ月間

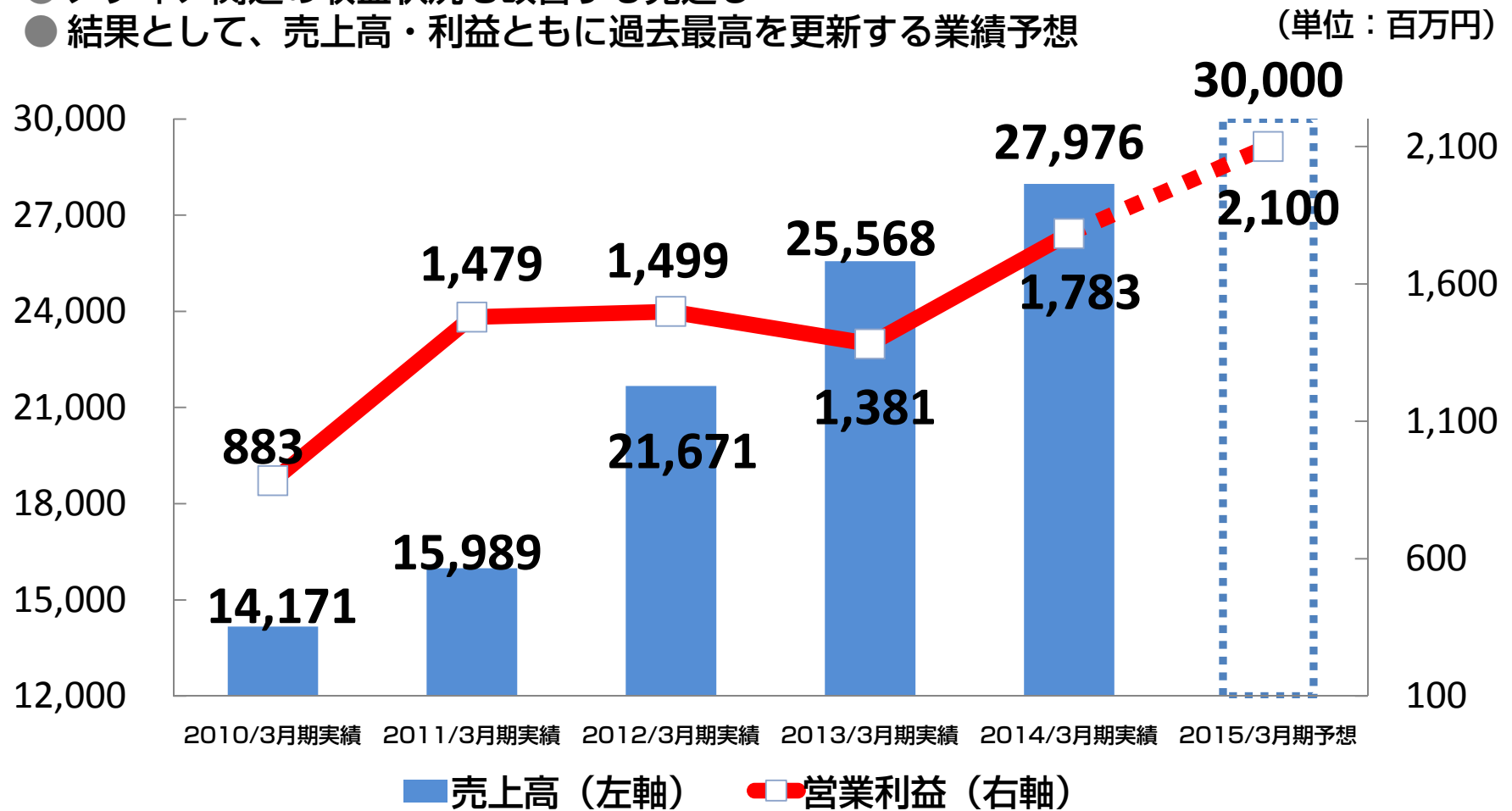
※2 電通推定値(出典:電通HP)、各年度の期間は1月～12月の12ヶ月間

1. 事業領域
2. 2014/3月期実績
- 3. 2015/3月期予想**
4. 株主還元

資料(2015/3月期 第1四半期実績)

連結業績予想（通期）

- 広告需要は引き続き、好調を維持
- 加えて、デジタル部門やアジア各拠点の売上増加を見込めることから、広告制作事業の売上高が引き続き堅調に推移
- メディア関連の収益状況も改善する見通し
- 結果として、売上高・利益ともに過去最高を更新する業績予想



1. 事業領域
2. 2014/3月期実績
3. 2015/3月期予想
4. 株主還元

資料(2015/3月期 第1四半期実績)

〈利益配分の基本方針〉

- 経営基盤と財務体質の強化を図るとともに、株主の皆様に積極的、かつ継続的に利益還元を行う方針
- 配当に関しては今後の収益予想を踏まえ、当面以下のとおり実施
 - ① 配当性向 30%以上
 - ② 1株当たり年10円以上

〈配当実績・予定〉

- 2014/3月期 (実績)

普通株式	1株当たり年間配当金	23円 (含、記念配当3円)
	うち中間配当金	7円

- 2015/3月期 (予定)

記念配当を含まず、前期同様の年間23円を予定

〈配当の状況〉

	2011/3月期	2012/3月期	2013/3月期	2014/3月期	2015/3月期
	実績	実績	実績	実績	予定
1株当たり当期純利益	30.43円	56.88円	26.15円	53.90円	74.72円
1株当たり配当金	20円	20円	23円	23円	23円
配当性向 (連結ベース)	65.7%	35.2%	88.0%	42.7%	30.8%

株主優待制度の新設

〈内容〉

① QUOカード贈呈
当社株式保有株数に応じてオリジナル
QUOカードを贈呈いたします。

保有株数	QUOカード
500株以上	2,000円分
2,000株以上	5,000円分
5,000株以上	10,000円分

② 撮影付オリジナル写真集の作成
AOI Pro.グループの（株）ホリーホックが、
ご応募いただいた中から抽選で10名の株主様に
株主様ご本人と株主様のご家族またはご友人と
ご一緒に写真撮影を行い、その写真をオリジナル
写真集としてお渡しいたします。



オリジナル写真集

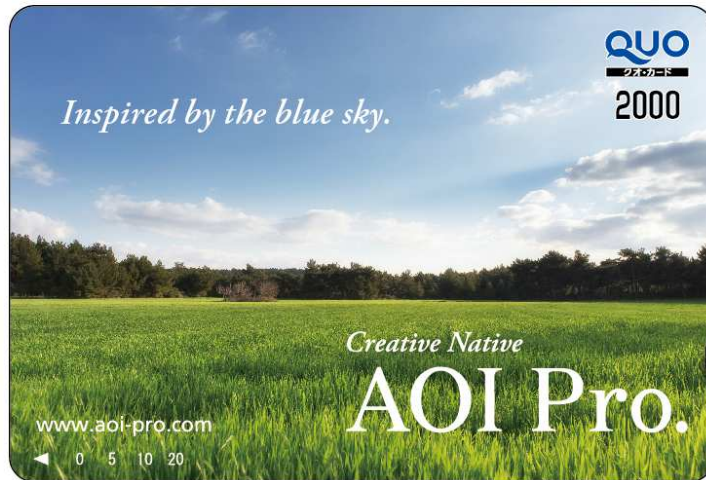
〈株主優待対象者〉

毎年9月30日現在の当社株主名簿に記載または記録された5単元(500株)以上保有
されている株主様を対象といたします。(①は贈呈対象者、②は抽選応募対象者)

QUOカード

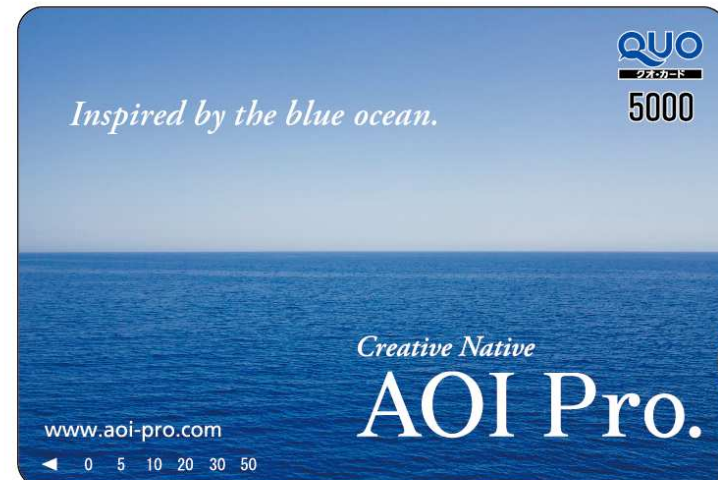
AOI Pro.

①



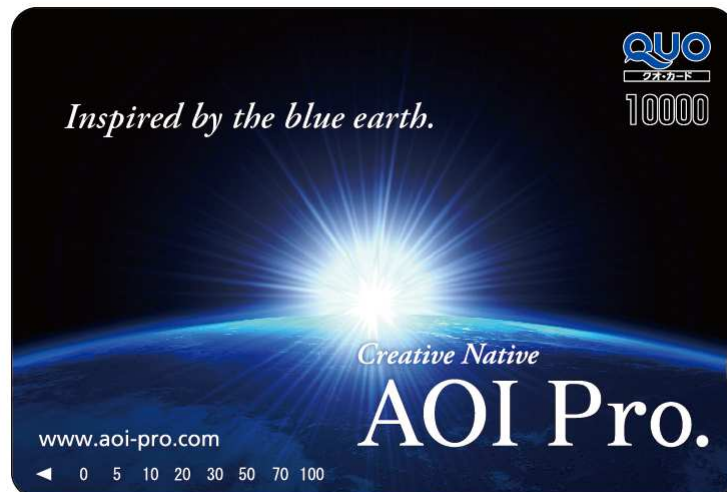
500株以上 2,000円

②



2,000株以上 5,000円

③



5,000株以上 10,000円

基準日	お届け時期(予定)・贈呈方法
9月末	12月上旬の中間報告書に同封

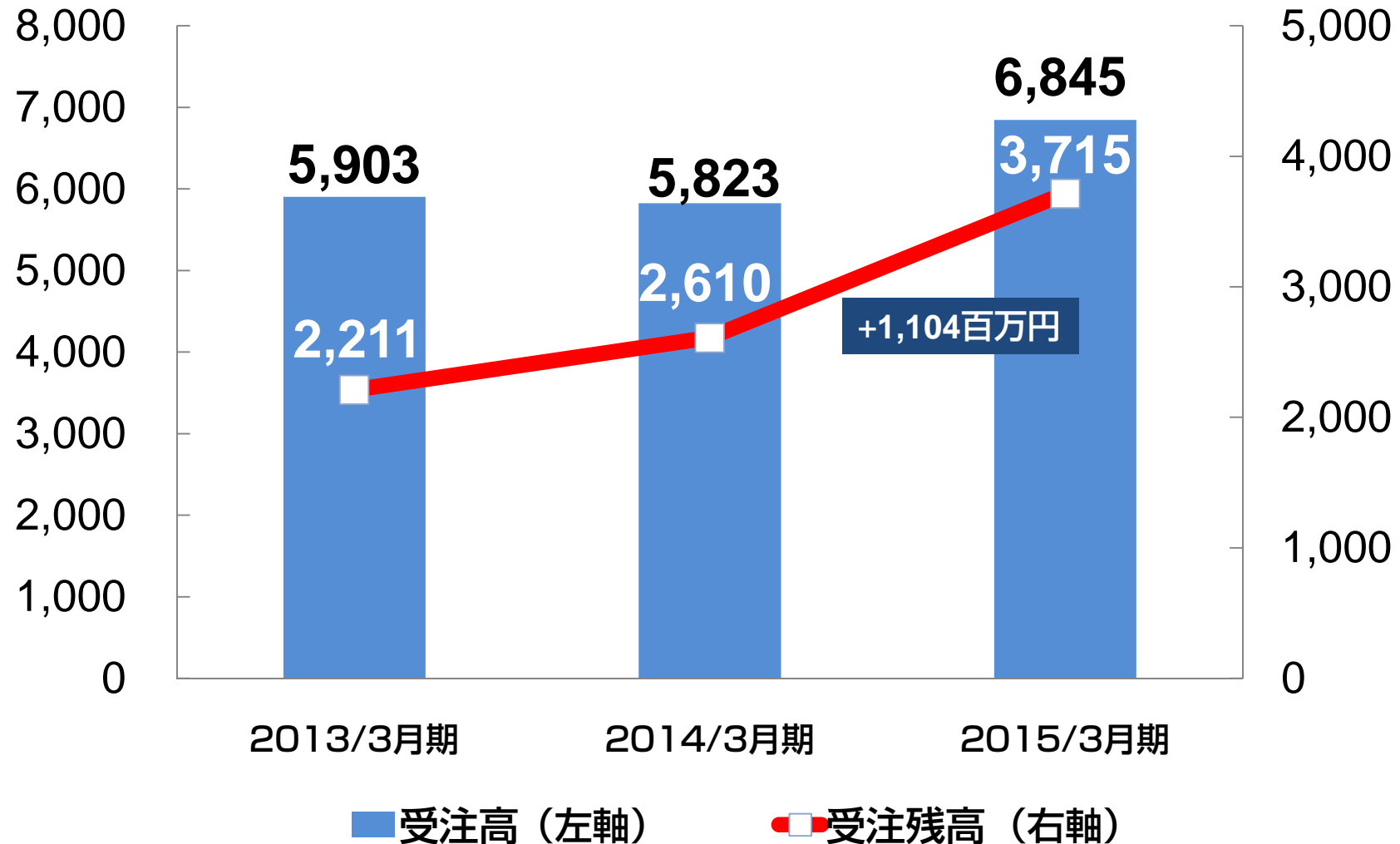
本日はありがとうございました。

1. 事業領域
2. 2014/3月期実績
3. 2015/3月期予想
4. 株主還元

資料(2015/3月期 第1四半期実績)

受注高と受注残高の推移

(単位：百万円)



連結決算概要(第1四半期)

AOI Pro.

- 消費税率引き上げ等に伴う広告需要の一時的な落ち込み等により、売上高が前年同期比539百万円減少
- 一方で、6月末の受注残高は前年同期比1,104百万円増加しており、受注状況は好調
- 利益については、売上高の減少を主因に減少

(単位：百万円、%)	2014/3月期 第1四半期		2015/3月期 第1四半期		前年同期比	
	売上高比	売上高比	売上高比	売上高比	増減額	(%)
売上高	6,319	100.0%	5,780	100.0%	-539	△8.5%
※ 売上原価	5,119	81.0%	4,673	80.9%	-446	△8.7%
売上総利益	1,199	19.0%	1,106	19.1%	-93	△7.8%
販管費	856	13.6%	921	15.9%	65	7.6%
営業利益	343	5.4%	184	3.2%	-159	△46.2%
経常利益	341	5.4%	182	3.2%	-159	△46.4%
税引前利益	341	5.4%	181	3.1%	-160	△46.7%
当期純利益	102	1.6%	62	1.1%	-40	△39.6%

※返品調整引当金考慮後

(単位：百万円)

